

社会保険神戸中央病院・後期研修医の外科研修

当院外科は日本外科学会専門医制度修練指定施設、日本消化器外科学会専門医制度修練認定施設、日本乳癌学会認定医専門医制度修練関連施設です。日本外科学会指導医 4 名、専門医 5 名、日本消化器外科学会指導医 3 名、専門医 4 名、日本乳癌学会認定医 1 名が常勤しております。

年間手術件数は胃癌約 50 例、大腸癌約 80 例、胆嚢結石約 60 例、急性虫垂炎約 50 例、ソケイヘルニア約 70 例、乳癌約 30 例です。後期研修医は上級医と二人一組で主治医団として患者の治療を担当します。上級医の指導のもと、研修医の先生には可能な限り積極的に手術執刀してもらい、手術手技を習得してもらいます。そして消化器外科を主体とした周術期の全身管理にかかわる手技、知識を習得してもらいます。毎週、金曜の術前術後症例検討会では、担当症例につき、術前診断と手術方針を提示して、討論に参加し、手術方針を決定します。術後症例については、その手術診断と術前診断を比較し、病理組織診の結果もふまえて、問題点を検討し、反省点を消化器内科、放射線科の先生方にフィードバックします。また日常臨床経験を中心に学会発表もしていただきます。このような日々の臨床研修を通じて **clinical surgical oncologist** の養成を目指しております。後期研修医は当科の母教室である京都府立医大消化器外科に入局していただき、当院での 2 年間の後期研修を終えた後、大学で希望の専門分野の研修を積んで、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、学位などの習得を目指すことができます。

指導医、手術症例、機器設備など後期研修に必要な環境は整っております。

社会保険神戸中央病院での外科後期研修で **clinical surgical oncologist** を目指してみませんか。